

# Influences of lower limb edema on daily lives of elderly individuals in an elderly day care center

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-11-04 キーワード: 作成者: 市橋, 紗由美, ICHIHASHI Sayumi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00067757">http://hdl.handle.net/2297/00067757</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 博士論文要約

## 論文題名

Influences of lower limb edema on daily lives of elderly individuals in an elderly day care center

(デイサービスに通所する高齢者における下肢浮腫が日常生活に与える影響)

## 著者名・雑誌名

Sayumi Tsuchiya, Takuto Sawazaki, Shuji Osawa, Makoto Fujiu, Mayumi Okuwa, Junko Sugama

Japan Journal of Nursing Science

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻

看護科学 領域

慢性・創傷看護技術学 分野

学籍番号 1629022012

氏名 市橋 紗由美

主任指導教員名 大桑 麻由美

副指導教員名 大江 真琴

副指導教員名

## 【背景】

高齢者は、循環器・腎・肝疾患等の有病率が高いことや、加齢に伴う栄養状態・皮膚張力・循環器機能・筋力低下等により下肢浮腫を生じやすい。また、歩行機能の低下した高齢者は下肢浮腫の有病率が高いことも示されている。

下肢浮腫の影響に関して、リンパ浮腫患者を対象とした研究があり、日常生活動作等の機能面、ボディイメージ等の容姿面、心理面への影響が報告されているが、加齢に伴う下肢浮腫を有する高齢者を対象とした報告はみられない。

## 【目的】

本研究の目的は、デイサービスに通所する歩行可能な高齢者において、下肢浮腫が日常生活に与える影響を明らかにすることである。

## 【方法】

研究デザインは、定量的内容分析研究である。対象者は、一施設のデイサービス通所中の下肢浮腫を有する 65 歳以上の高齢者とした。包含基準は、独歩または歩行補助具を用いて歩行可能な者、施設の看護師によりインタビューが実施できると判断された者、研究参加同意の得られた者とした。除外基準は、認知機能低下によりインタビューへの回答が困難である者、研究参加同意の得られない者、施設の看護師により研究参加に適さないと判断された者とした。

調査は、日常生活への影響に関するインタビューと浮腫の程度の観察を、初回、初回から 3 か月後・6 ヶ月後の計 3 回実施した。日常生活への影響に関するインタビューでは、Quality of Life Measure for Limb Lymphoedema (LYMQOL) の機能・容姿・症状・心理の各質問項目の内容に、具体的にどのような日常生活への影響があるかについての質問内容を加えたインタビューガイドを用いて、半構造化面接を実施した。浮腫の程度の観察では、左右下肢の計 22 か所において浮腫の重症度をグレード 0 (圧痕なし) ～グレード 3 (圧迫開始時の視診や触診ですでに浮腫が明らかなもので圧迫解除後に深い圧痕が残るもの)、または非圧痕性浮腫と評価した。各肢におけるグレードの数値を合計したものを圧痕スコアとし、スコアのとりうる範囲は 0～33 であった。非圧痕性浮腫が確認された場合は、スコアには含めず非圧痕性浮腫ありと記録した。

分析は、面接内容の記録および録音データをもとに逐語録を作成し、テキストマイニングソフトウェアの KH Coder を用いて頻出語分析と内容分析を用いて行った。はじめに、全対象者の全てのインタビューにおいて出現回数が多い語を確認するため、頻出語分析を行った。抽出された頻出語は LYMQOL をフレームワークとして、機能・容姿・症状・心理に分類した。その後、身体機能に関する頻出語に着目し、その語の文脈中の意味を確認するため、文脈付き索引による内容分析を行った。

本研究は、金沢大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した (審査番号: 40-1)。

## 【結果】

包含基準を満たした 13 名のうち、5 名が調査期間中の体調不良のため 3 回のインタビュー・浮腫の観察を完了できず、1 名が施設都合により 1・2 回目のインタビューの中断があったため、最終的に 7 名 (ID a, b, c, d, e, f, g) の計 21 回のインタビューを分析対象とした。1 回のインタビュー所用時間は 20～30 分であった。対象者の平均年齢は  $83.4 \pm 4.6$  歳で、下肢の静脈疾患を有する者はいなかった。両下肢共に圧痕スコアが 0 の対象者はいなかった。

形態素解析の結果、46,503 語が抽出された。頻出語分析の結果、LYMQOL の機能に分類された語に関しては、「行く」(143 回)、「歩く」(136 回)、「履く」(135 回) の出現頻度が高かった。容姿に関しては「太い」(70 回)、症状に関しては「痛い」(113 回)、心理に関しては「睡眠」(41 回) がそれぞれ最も出現頻度が高かった。「歩く」「履く」に着目して内容分析を行った結果、歩行の困難感については全対象者から、靴の履きにくさや履くことができる靴の制限については圧痕スコアが低い者 (ID d 2 回目、スコア：右下肢 2/左下肢 1) からも訴えがあった。

## 【考察】

本研究の新たな知見は、下肢浮腫を有する歩行可能な高齢者は LYMQOL の機能・容姿・症状・心理のうち、特に機能に関する語の出現頻度が高く、歩行や靴の着脱・選択に困難感を抱いていることである。特に対象者からの訴えに多かった「歩く」ことの困難感、外に「行く」ことの減少につながり、認知機能や筋力低下などを引き起こす可能性があるため、歩行可能な高齢者の歩行能力や外出機会の維持・向上のためには浮腫軽減ケアは重要であると考えられる。

## 【結論】

下肢浮腫を有する歩行可能な高齢者は、たとえ歩けていても、下肢浮腫による日常生活上の困難感を抱えており、下肢浮腫ケアの必要性が示された。今後は、歩行可能な高齢者に対して簡便に継続的に実施できる下肢浮腫ケア方法の検討が必要である。